

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市及び郊外のファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2015年7月現在，リオ市内ファベラ計40カ所にUPPを設置）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。

また，依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部，海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない（本年に入ってから，これまで安全と言われてきた南部地区の地下鉄内においてもアハスタウンが連続発生）。治安当局もこれらの取締りを強化しているが，法律上の問題もあり，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等，警察による取締りが治安改善に直結していない問題がある。

2016オリンピック・パラリンピック・リオ大会開催に向け，リオ州政府としても，治安を担当する公安局を中心として，一般治安の改善を最優先課題の一つとして取り組んでいるが，市民の体感治安はむしろ悪化している現状にある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）第1四半期総括

州政府は凶悪犯罪対策に注力しており，殺人，強盗の発生数はUPPが設置された2008年以降2012年まで減少傾向にあった。しかしながら，2013年初頭から再び増加に転じ，2014年以降，その傾向が特に顕著になっている。また，窃盗総数及び犯罪総数にいたっては，過去10年間軒並み増加傾向にある。

一般治安悪化の理由については，まずは当地の経済事情の悪化が挙げられるが，相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため，既存の警察署の人員不足が深刻化したことや，リオ+20，コンフェデ杯，ローマ法王来訪，昨年ワールドカップと大規模行事が立て続けに開催され，これらに対する警備及び大規模デモ対策に多くの人員を割かれ，人員不足が一層顕著になったことなども指摘されている。

第1四半期においては，特に4月以降，フラメンゴ地区，ボタフォゴ地区と

いった邦人が多く居住し、多数の日本企業が所在する南部地区において強盗事件が多発し、邦人も複数名被害に遭うなど体感治安の悪化が懸念されている。

2013年のリオ市の人口10万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約28倍（2012年は23倍）、強盗は約375倍（2012年は300倍）と前年を大きく上回っている。

1. リオ州・市犯罪発生状況 2015年4月（前年同月比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	338（-111）	97（-1）
強姦	420（-43）	160（+23）
商業施設強盗	523（-230）	378（+175）
住居侵入強盗	86（-33）	33（-11）
車両強盗	2690（-387）	1372（+162）
路上強盗	5617（-1234）	3223（-164）
交通機関内強盗	648（-15）	371（±0）
携帯電話強盗	908（+342）	499（+137）
強盗総数	12187（-550）	6742（-74）
窃盗総数	14128（-278）	7611（-488）

2. ZONA SUL 犯罪発生状況 2015年4月（前年同月比増減数）

フラメンゴ・ボタフォゴ地区

殺人	0（-2）
商業施設強盗	9（-10）
住居侵入強盗	2（-3）
車両強盗	25（+11）
路上強盗	174（+59）
交通機関内強盗	7（-3）
携帯電話強盗	34（+19）
強盗総数	314（+98）
窃盗総数	467（-29）

コパカバーナ地区

殺人	0（-2）
商業施設強盗	11（+5）
住居侵入強盗	0（-4）
車両強盗	2（+2）
路上強盗	28（-48）
交通機関内強盗	4（-5）
携帯電話強盗	3（-2）

強盗総数 69 (- 71)
窃盗総数 470 (- 24)

イパネマ・レブロン地区

殺人 1 (- 1)
商業施設強盗 3 (- 1)
住居侵入強盗 2 (- 6)
車両強盗 5 (- 7)
路上強盗 62 (- 21)
交通機関内強盗 13 (- 3)
携帯電話強盗 7 (- 7)
強盗総数 118 (- 57)
窃盗総数 386 (- 15)

3. 一般事件等（邦人が多く居住する南部地区における主な凶悪犯罪）

(1) フラメンゴ地区のスーパーマーケットで強盗被害

4月7日（火）午後、リオ市フラメンゴ地区のスーパーマーケット、ゾナ・スール（サン・サルバドール公園前店）に武装した2人の賊が現れ、レジから現金を強奪、警察が到着する前に二輪車で逃走した。発砲等はなく、けが人もなかった。

(2) パイサンドゥ通りで強盗事件が発生

4月27日（月）午前10時30分頃、リオ市フラメンゴ地区のパイサンドゥ（PAISSANDU）通りにおいて、伯人女性が携帯電話を片手に通話しながら歩いていたら、後方から男が忍び寄り、服の下に拳銃のようなものをちらつかせながら、携帯電話を渡すように要求。女性が携帯電話を手渡すと、男は足早に走り去った。

(3) ラゴア地区で強盗が発生

4月25日（土）午前10時頃、リオ市ラゴア地区のCORTE DO CANTAGALO大通り（コパカバーナ地区からラゴアに抜けた地点）において、未成年者の集団（4人）がナイフで通行していた自転車を襲った。自転車を運転していた少年（14歳）が抵抗したところ、同少年を切りつけて怪我を負わし、そのまま自転車を奪って逃走した。

(4) ラルゴドマシャード駅付近で銃撃戦

4月28日（火）昼頃、リオ市フラメンゴ地区ベント・リスボア（BENTO LISBOA）通り175番地のロテリーア（宝くじ売り場兼公共料金支払所）において、覆面をかぶり拳銃を所持した男2名が突然現れ、同店

舗窓口の従業員及び並んでいた客を拳銃で脅し、現金を奪おうとする事件が発生。

事件に気づいた同店舗警備員が、犯人に向けて発砲し、犯人1名を捕らえたが、残りの1名は何も奪わずに二輪車で逃走した。

(5) アルゼンチンビル前でオートバイが強奪

5月15日(金)午前9時半頃、ボタフォゴ地区アルゼンチンビル(日本企業が複数オフィスを構える)前路上において、被害者がオートバイを路上駐車しようとしていたところ、2人乗りのオートバイ(後部座席に乗車の犯人が拳銃を所持)が現れ、拳銃を構えながたオートバイを渡すよう要求。

被害者がオートバイから離れると、2人組のうち後部座席に乗車した犯人が被害者のオートバイを奪い、2台のオートバイはそのまま逃走。

上記アルゼンチンビル前では、4月28日(火)午前9時30分(今回と同時間帯)にも、同様の手口(2人乗りのオートバイ・拳銃使用)によるオートバイの強盗事件が発生。

(6) ラゴアで強盗殺人事件が発生

5月19日(火)、午後7時30分頃、被害者(57歳、男性)がラゴア地区のクルバ・デ・カロンプ(Curva de Calombo)付近(注:ボタフォゴ・ポート・クラブ付近)を自転車で通行中、2人の少年に襲われた。

被害者は抵抗しなかったが、いきなり腹部をナイフで刺され、地面に倒された。少年2名は被害者の自転車を奪い、そのまま逃走した。

被害者は、通報により駆けつけた救急隊により病院に搬送されたが、出血がひどく、本日(20日)、死亡が確認された。

発生当時、付近は街頭があり十分明るく、人通りも非常に多い時間帯だった。

(7) イパネマ地区で銃撃戦が発生

5月24日(日)午後8時頃、リオ市イパネマ地区ヴィニシウス・デ・モラエス通り近辺(レストラン等が点在し邦人も食事等でよく利用する地区)において、巡回中のパトカー(軍警察官2人乗車)が、自転車に乗った怪しい人物(1名、男性)を見つけ追跡を開始した。

同通りにおいて、自転車にパトカーを追突させ、容疑者は自転車から落ち、その後、ヴィスコンデ・デ・ピラジャ大通り(Av. Visconde de Piraja)、ファルミ・デ・アモエド(Rua Farne de Amoedo)において、警察官との銃撃戦となった。

同容疑者は怪我を負った模様だが、カンタガロスラム街(Favela do Cantagalo)方面へ逃亡した。銃撃戦による怪我人はでなかったが、流れ弾により、ヴィスコンデ・デ・ピラジャ大通りにある店「Amor Perfeito」のガラ

スが破損した。

(8) ボタフォゴ地区で強盗に伴う発砲事件で女性が負傷

6月10日(水)午前10時30分頃、地下鉄ボタフォゴ(Botafogo)駅前のネルソン・マンデラ(Nelson Mandela)通りとサン・クレメンテ(Sao Clemente)通りの交差点付近で、けん銃を所持した2人組が近くを歩いていた男性1名から財布を強奪。

犯行現場を目撃した別の青年(警察官の息子と自称)が財布を取り戻そうと、犯人らに近づいたところ、犯人の一人が青年に向けて発砲。

弾丸は青年に当たらず、近くの薬局に入ろうとしていた23歳の女性の足に命中し、犯人2名はそのまま徒歩で逃走。

(9) セントロ地区でアハスタウンが発生

6月11日午前9時頃、セントロ地区メキシコ通り(Rua Mexico)、在リオ米総領事館付近(当館広報文化センターから約100メートルの地点)において、15~20人の少年グループによるアハスタウンが発生。

少年らはナイフを所持して通勤途中の人々を次々と襲い、携帯電話、財布などを強奪(警察が現場に駆けつけた際には、既に少年らは逃走)。

(10) レブロン地区で銀行強盗が発生

6月11日午後4時30頃、レブロン地区アタウルフォ・デ・パイバ通り(AV. Atarulfo de Paiva)とジョゼ・リニャレス通り(R. Jose Linhares)の交差点付近に位置するイタウ(ITAU)銀行に4人組の強盗(全員がけん銃で武装)が押し入った。

犯人らは警備員から武器を奪うと、同銀行支店長に対して金庫から現金を出すように指示し、支店長が現金を手渡すと、そのまま現金を奪って逃走。

犯行時間はわずか5分ほどで、銃撃戦は発生せず、けが人もなかった。

(11) イパネマ地区で銃撃戦が発生

6月28日(日)午後4時30分頃、伯人女性(23歳)がイパネマ地区のバラオン・ダ・トッヘ(Barao da Torre)通りを歩いていたところ、同通りとアニバル・デ・メンドンサ(Anibal de Mendonca)通りとの交差点にさしかかったところで、強盗(2人組・バイクに乗車)に襲われた。

後部座席に乗った犯人が、女性にけん銃を突きつけ、現金等が入ったカバンを差し出すよう要求した。

女性が助けを呼ぼうと抵抗したところ、犯人は女性の顔を殴り、怪我を負わせた後カバンを強奪した。

近くに居合わせた警備員(非番勤務中の軍警察官)が犯人の乗車したバイクに向けて2発発砲し、1発が後部座席に乗車した犯人に命中したとみられるが、犯人らはそのまま女性の所持品を持って逃走した。

(12) 邦人被害事案（強盗等凶悪犯罪）

ア ボタフォゴ湾のランニングコースで邦人が強盗被害

5月2日（土）午後9時頃、フラメンゴ地区ボタフォゴ湾のランニングコース（Ciclo-Via:シクロ・ビア）において邦人1名がランニング中、後方から2名の黒人男性（年齢不詳）が走って近づいてくると、いきなり同邦人を地面に押し倒し、「携帯電話を渡すよう」要求した。邦人が所持していた財布（現金及び自宅鍵が在中）及びスマートフォン1台を差し出すと、犯人2名は足早に立ち去った。邦人は倒された際に肘をすりむくなどの怪我を負ったが、軽傷だった。

イ フラメンゴ地区バス停で邦人被害の強盗事件が発生

6月2日（火）午前8時00分頃、フラメンゴ地区、プライア・ド・フラメンゴ通りのレストラン「Alcaparra」前バス停留所において、邦人女性が、自転車に乗った年齢20代位の男性に（Tシャツの中からけん銃のようなものを見せられ）「携帯を渡すよう脅された。

邦人女性がカバンから携帯電話（スマートフォン・ソニー製）を手渡すと、そのまま自転車でボタフォゴ地区方面に立ち去った。

邦人女性の前にバス停留所内にいたブラジル人女性も、同様の被害に遭った模様。

4. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2015年4月中、リオ州内で短時間誘拐13件（うちリオ市6件）、脅迫6、259件（うちリオ市2、318件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。

6. 日本企業及び在留邦人の安全に関わる諸問題等

本年4月7日以降、フラメンゴ地区のルイ・バルボーザ通り（公邸から至近距離にあり、近隣には日本企業駐在員も多数居住）の無人ビルに、100人を超える貧困者が不法占拠を始めた（周辺には多数の邦人が居住）。リオ市政府が代替え住宅の提供等を示しながら早期の立ち退きを求めたが、不法占拠した住人側はこれを受け入れず、4月14日、州軍警察による強制排除が行われた。排除の過程において、住民側が建物に火をつけるなどの騒ぎとなったが、不法占拠者全員の排除に成功した。

このように、本年に入ってから、邦人が多く居住する南部地区における体感治安の悪化が懸念されており、在リオデジャネイロ日本国総領事館と

しても、引き続き当地治安当局に対して街頭警備の強化による治安の改善を求めていく方針。

以上